

一般社団法人日本解剖学会 2022(令和4)年度第5回常務理事会議事録

日時：2022(令和4)年12月10日（土）10:30～13:30

場所：AP東京八重洲通り 11階Mルーム

出席者：渡辺 雅彦（理事長）、木山 博資、寺田 純雄、仲嶋 一範、福田 孝一（以上、常務理事）、市村 浩一郎、大野 伸彦、竹林 浩秀（以上、常任幹事）、中村 聡（口腔保健協会）

I. 以下の会議記録が確認された。

(1) 2022(令和4)年度第4回常務理事会（令和4年9月17日開催）議事録（案）

II. 報告事項

1. 庶務報告

(1) 会員異動報告

資料に基づき、以下の通り報告があった。

・令和3年9月分

入会者：正会員 3名、学生 2名

退会者：正会員 4名、学生 1名、賛助会員 1名、名誉会員 1名

・令和3年10月分

入会者：正会員 3名、学生 13名

退会者：正会員 7名、学生 3名

・逝去会員（5名）

澤田 芳男 氏（熊本大・名誉教授／名誉会員）令和3年3月1日逝去（満101歳）

山元 寅男 氏（九州大・名誉教授／名誉会員）令和4年4月4日逝去（満96歳）

松島 龍太郎 氏（広島大・名誉教授／名誉会員）令和4年10月4日逝去（満94歳）

熊木 克次 氏（新潟大・名誉教授／永年会員）令和4年11月2日逝去（満81歳）

藤田 守 氏（中村学園大・元教授／永年会員）令和4年11月21日逝去（満75歳）

・新規就任教授（1名）

赤澤 祐子 氏（長崎大・医・組織細胞生物学）令和4年10月1日就任

(2) 学会宛文書類について

資料に基づき、以下の通り到着した文書の報告があった。

通知・依頼：（公社）愛知県医師会より「男女共同参画に関する委員会等の設置状況調査」他85件
書籍・定期通信 他：（独）日本学術会議より「学術の動向2022.9」寄贈 他14件

(3) 男女共同参画学協会連絡会報告

資料に基づき、下記の報告があった。

・第20期第3回運営委員会（2022年8月22日開催、藤山文乃氏、井関祥子氏参加）において、第5回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査の結果がWeb上で公開されたことが報告された。

・第20回連絡会シンポジウム（オンライン開催）において学会の活動内容をポスター形式で公開した。

(4) 2023(令和5)年度推薦による代議員申請状況について

資料に基づき、3名の推薦があったことが報告され、理事会で審議することとした。

(5) 支部代議員会報告

資料に基づき、第68回東北・北海道連合支部学術集会代議員会（2022年9月11日開催）、第82回中部支部学術集会代議員会（2022年10月15日開催）、第76回中国・四国支部学術集会代議員会（2022年10月29日開催）、第98回近畿支部学術集会代議員会（2022年11月26日開催）での議事録の内容が報告された。

(6) 次期役員選出選挙報告

資料に基づき、次期役員選挙の結果が報告された。投票締め切り直前を含め2回のリマインドメールを送信したところ、投票率が71.08%と前回選挙よりも大幅に上昇したことも報告された。

(7) 会費請求用封筒裏面の有効活用について

資料に基づき、会員の利便性向上のために、会費請求用封筒の表面にOHASYSのQRコード、裏面に登録情報の変更、会費銀行引き落としの案内、退会手続き方法を掲載することが報告された。掲載は2023年度第1回会費請求時からとなることも報告された。

(8) その他

特になし。

2. 編集報告

(1) ASIについて

資料に基づき、ASIのImpact Factor（2021年）が報告された。また、ASI編集委員会の議事内容として、2023年特集号のテーマなどが報告された。

(2) 解剖学雑誌第98巻第1号の内容について

原稿の依頼などが順調に進んでいることが報告された。

(3) アウトリーチ委員会報告

資料に基づき、バナー広告の申し込み（1件）があったが、日本解剖学会バナー広告掲載基準に抵触しており、不掲載としたことが報告された。

(4) 解剖学用語委員会報告

資料に基づき、「高等学校の生物教育における教育用語集」の作製のための用語調査（生物科学学会連合が実施）への回答を、科目「生物基礎」について行なった内容が報告された。

(5) その他

特になし。

3. 企画・渉外報告

(1) 2022(令和4)年度奨励賞について

資料に基づき、選考委員会の議論の概要についての説明があり、委員会から推薦のあった4名の受賞が報告された。

(2) 一級ならびに二級認定技術者審査結果について

資料に基づき、一級技術者1名の試験合格、二級技術者3名の資格審査合格の判定結果が報告された。

(3) 2023(令和5)年度第128回総会・全国学術集会準備状況について

資料に基づき、12月4日時点で607演題が登録されたことが報告された。対面で実施すること（一部の会場についてはライブ配信やオンデマンド配信を併用）や懇親会の開催が検討されていることが報告された。

(4) 2024(令和6)年度第129回総会・全国学術集会準備状況について

資料に基づき、特別講演者やシンポジウム、会場等の準備状況について報告があった。

(5) 日本医学会・日本医学会連合報告

資料に基づき、6月29日開催（福田常務理事出席）の総会の議事内容が報告された。関連してコロナ禍のため延期されていた日本医学会連合リトリート2022（2023年3月開催予定）への参加候補者として、再公募と賞・研究費候補者選考委員会での検討を経て、改めて6名を学会として推薦することが報告された。また、第31回日本医学会総会（2023年開催）の準備状況が報告された。日本医学会奨励賞の応募者1名につき、賞・研究費候補者選考委員会での検討を経て推薦が付与されたこと、総会で展示予定の学会の活動内容紹介ポスターが、アウトリーチ委員会の対応により作製されたことも報告された。

(6) 生物科学学会連合報告

資料に基づき、第25回定例会議（7月26日開催、寺田常務理事出席）、第26回定例会議（11月28日開催、市村常任幹事出席）の内容が報告された。各委員会の活動内容の説明、学術会議関連の連絡事項、次期代表選挙の結果などの報告があった。若手研究者支援に関するアンケートの要請に対しては若手育成委員会、高校生物の教科書の用語の希望調査アンケート（前述）については解剖学用語委員会に検討を依頼し、対応したことが説明された。また未来の学術振興構想、学協会に関わる法人制度の運用改善に関する提言などについても報告された。

(7) 日本脳科学関連学会連合報告

資料に基づき、次期代表に高橋良輔氏（京都大学）が選出されたことが報告された。さらに、次期副代表の選挙が行われ、加藤忠史氏（順天堂大学）、岡野栄之氏（慶應大学）が当選したことが報告された。

(8) 若手研究者の会について

特になし。

(9) 国際渉外関係について (KAA、APICA、IFAA等)

資料に基づき、KAA (韓国) との相互交流については、過去の奨励賞受賞者を中心に選定し、2023年は玉田宏美氏 (名古屋大学)、辻琢磨氏 (順天堂大学) を派遣する予定であること、2024年はKAAから招聘した研究者と共に長谷川智香氏 (北海道大学) がシンポジウムを開催する予定であることが報告された。第10回APICA (アジアパシフィック国際解剖学会議) はオーストラリアとニュージーランドによる合同開催の予定であったが、現段階で開催の情報がない。第20回IFAAは、8月にイスタンブールでオンラインで開かれた。次回の韓国で開催されるIFAAでは、JAA会員に参加を促すためのアナウンスをするなど、JAAとKAAと間の協定に基づく協力を行うことが確認された。IFAAに所属する学会員より、Terminologia Anatomica 2 (TA2) について非公式な意見を求められ、常務理事会と解剖学用語委員会と協議を行い、今回はJAAとしてTA2についての公式見解を出すことは見送ることとなった。

(10) その他

資料に基づき、聴覚障害を持つ方が全国/支部学術集会に参加する際の支援について検討された。今年の近畿支部学術集会を担当した近藤洋一氏 (大阪医科薬科大学) からの報告を受けて、対応を検討することとした。

4. 会計報告

(1) 支部学術集会決算について

資料に基づき、第68回東北・北海道支部連合学術集会 (2022年9月11日開催)、第82回中部支部学術集会 (2022年10月15日開催)、第76回中国・四国支部学術集会 (2022年10月29日開催) の収支報告書が報告された。

(2) 2022 (令和4)年度中間決算書について

資料に基づき、2022年度中間決算では、旅費、交通費の支出が少ないなどコロナ禍の影響があるが、会費収入などについては、ほぼ例年通りであることが報告された。

(3) インボイス制度・電子帳簿保存法対応について

資料に基づき、顧問税理士との相談により、2023年10月に始まるインボイス制度における登録を見合わせる事が報告された。また、電子帳簿保存法については、原則として請求書は電子媒体発行を行わず (タイムスタンプをつけず) にスクラップブック貼付にて対応することが報告された。

(4) その他

特になし。

5. 理事長報告

(1) 日本外科学会CST推進委員会報告

資料に基づき、CST推進委員会の委員の4名の推薦について報告された。また、日本外科学会CST推進委員会についての説明会が8月24日に開催されたこと、これまでCST推進委員会は外科学会にて運営されてきたが、今後は外科のサブグループごとにCST報告書レビューを行っていく予定であることが報告された。

(2) 日本学術会議「未来の学術振興構想」について

資料に基づき、解剖学会、生理学会、薬理学会の3学会でWGを設置して意向表明を実施する方向で準備されていることが報告された。

(3) 解剖体の取り扱いに関わる不適切事案対応と日本解剖学会・篤志献体全国連合会共同声明文発出について

これまでに共同声明文が準備され、それをもとに文科省と協議を行ったことが報告された。今後、具体的な方向性や取り組みの例を加えて出す発出する方向で準備していることが報告された。

(4) その他

資料に基づき、長崎大学より提案のあったプリオン検査プラットフォーム立ち上げにうちえ、その目的設定を、プリオン陽性率などの科学的エビデンスを得るための調査研究とすることが望ましいと回答したことが報告された。

IV. 審議事項

1. 休会申請について

資料に基づき、1名の出産・育児による休会申請と1名の会員としての活動が行えないためによる休会申請について審議の結果、理事会で審議することが了承された。

2. 教授就任による代議員の承認について

資料に基づき、以下の1名の教授就任に伴う代議員申請が審議の結果了承され、理事会へ報告することになった。

赤澤 祐子 先生（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 組織細胞生物学分野 教授、2022年10月1日就任）

3. 名誉会員・永年会員の推薦について

資料に基づき、以下の1名の名誉会員の推薦、ならびに18名の永年会員推薦について、理事会で審議することが了承された。

屋代 隆 先生（自治医科大学、永年会員歴 2018年度）

4. 2022(令和4)年度認定技術者功労賞について

資料に基づき、申請があった1名の受賞について、理事会で審議することが了承された。

5. 終身会費の特別会計化と用途について

資料に基づき、規約を改訂した上で終身会費を特別会計に特別事業積立金として組み入れ、特別事業積立金の既存の一般口座とは別口座として管理して、主に若手育成を目的として活用することを理事会で審議することが了承された。また、具体的な用途については、若手研究者の会からの提案内容が審議され、承認された。

6. 第26-27期日本学会議会員・連携会員の選考対象に関する情報提供について

資料に基づき、1月に会員・連携会員候補の情報提供を行うことが了承された。

7. 会員専用ページ内での「解剖体取扱指針」「感染防御指針」等の閲覧について

資料に基づき、各大学での指針の作成に向けての情報共有のため、解剖学会の会員専用ページ内で一部の大学の指針を参考のために閲覧できるようにすることについて、理事会で審議することが了承された。

8. 2023(令和5)年度事業計画案について

資料に基づいて説明があり、理事会での審議を行うことが了承された。

9. 2023(令和5)年度仮予算書案、ならびに事務委託契約について

資料に基づいて説明があり、理事会での審議を行うことが了承された。

10. その他

特になし。

次回（2023(令和5)年度第1回）の日程について：新旧合同理事会となります

日時 2023(令和5)年1月21日（土）11：30～13：00（常務理事会）、13：30～15：00（新旧合同理事会）、15:00～15:30（選挙）、16:00～17:00（引継ぎ）

会場 AP新橋 ※ハイブリッド形式で実施